

◆団体基本情報

No.	20	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人 仙台市公園緑地協会		
所在地	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪一丁目3-35						
電話番号	022-293-3583		FAX番号	022-293-3605		所管 部局	建設局
団体ホームページ	http://sendai-green-association.jp					百年の杜推進課	
代表者職氏名	理事長 小高 睦			設立年月日	昭和42年10月7日		
資本金・基本財産	118,000 千円		市の出捐額(割合)	59,000 千円 (50.0 %)			
設立目的	都市緑化及び公園緑地に関する事業を通じて、市民生活に安らぎと潤いをもたらし、あわせて緑の文化を発信する。						
事業概要	都市緑化及び公園緑地等に関する普及啓発、利用促進。 公益目的事業の推進に資するための収益事業等。						
評価対象決算期	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日						

◆人員等の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	2 人	2 人	2 人
②常勤役員平均年齢	62.0 歳	63.0 歳	62.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	5,053 千円	5,211 千円	5,421 千円
④職員数	132 人	131 人	137 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	14 人	14 人	13 人
⑤職員平均年齢	53.6 歳	54.5 歳	54.8 歳
⑥職員平均年間給与	3,115 千円	3,447 千円	3,484 千円

◆主要財務データ

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①当期経常増減額	7,754 千円	△ 5,254 千円	△ 31,199 千円
②当期経常外増減額	△ 300 千円	0 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	6,455 千円	△ 4,867 千円	△ 36,547 千円
④一般正味財産期末残高	171,586 千円	166,719 千円	130,172 千円
⑤指定正味財産期末残高	59,000 千円	59,000 千円	59,000 千円
⑥正味財産期末残高	230,586 千円	225,719 千円	189,172 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①市からの補助金	15,196 千円	15,449 千円	13,457 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	1,007,331 千円	1,028,062 千円	1,096,860 千円
③市に対する収入依存度	74.37 %	76.16 %	84.36 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和2年度事業費
緑の普及啓発事業	花壇づくり助成事業, 緑化コンクール事業, 記念樹交付事業	26,859 千円
公園緑地等運営事業	野草園, 太白山自然観察の森, 青葉の森緑地, 七北田公園及び各区運動施設公園等の管理運営	687,475 千円
墓園斎場運営事業	葛岡墓園, 北山霊園, いずみ墓園及び葛岡斎場の管理運営	373,159 千円
収益事業	八木山動物公園等における売店, 食堂, 駐車場の管理運営	200,212 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	施設運営にあたっては、アンケートの実施等により、利用者の要望等を把握し、迅速に施設改善を図った。年度初めは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により施設が休止等になり、中止となった事業もあったが、再開後は内容を見直しながら講座やイベント等を実施し、施設の利用促進に努めた。また、7月よりYouTube動画配信を開始した。施設のPR、イベントの様子等及び花壇づくりの様子等広く配信し、協会事業の周知に努めると共に緑化の推進・普及啓発を図った。	新型コロナウイルスの影響を踏まえ、創意工夫をしながら新たな手法を取入れるなど、積極的に取り組んでいる。厳しい環境下であっても前向きに取り組む姿勢が見られ、利用者からも一定の評価があるので、引き続き次年度以降の充実に期待したい。
2. 業務・組織管理	協会の組織・財務強化を図ることを目的として策定した中期経営計画に基づき業務を行った。また、「パートタイム・有期雇用労働法」施行に伴い、非正規職員の給料及び手当等の待遇改善を図った。さらに、法令順守の取り組みや研修会参加を推進する等、組織管理に努めた。	中期経営計画に基づき、安定した運営が行われている。働き方改革関連の変化には、短い期限の中で迅速かつ適切に対応した。また、プロパー職員の管理職登用など引き続き、良好な組織風土の醸成に努めている。
3. 財務状況	令和2年度の財務状況は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当期経常増減額は31,199千円の赤字となった。来年度は、収益事業の黒字化など立て直しに努め、より一層効率的な運営を図るなど、安定した法人経営に努める。	新型コロナウイルスの影響による施設の休館、利用者の減少という状況であったと思料されるが、今後の情勢に応じた収益の確保に努め、より安定した経営に期待したい。
4. 今後の方向性及び課題	公益事業については、効率的な運営の推進に努めていく。また、収益事業からの繰入金資金とした協会独自の事業（自主事業）、施設間での業務報告会の実施及び外部研修への参加等を引き続き実施し、職員の資質と専門性を高め、安定した管理運営に努めていく。	第4次中期経営計画に基づき、より優位性、独自性を発揮することや、新型コロナウイルスの動向を注視しつつ収益回復に努めること、また、プロパー職員の管理職への積極的な登用など管理運営の改革に期待している。